

# 図書館たより

号数 第48号  
発行日 昭和55年9月13日  
編集行 島根県立図書館  
松江市内中原町52  
電話 (0852)22-5725  
印刷 渡部印刷



(夏休みでぎわうこども室)

## 図書館法施行30周年記念

### 『図書館利用体験記』発表

今年は、図書館法施行30周年にあたります。その間、図書館利用者は増大し、読書施設も徐々に整備されつつあります。当館ではこれを記念し、今年5月広く県民の皆さんから、図書館（公民館図書室を含む）を利用した体験記や感想文を募集しました。その結果123人の方から応募があり、その中から優秀賞6名、入選23名を決定しました。優秀作品ならびに入選者氏名を紹介します。

## としょかんとわたし



松江市立古志原小学校

2年

木下晶子

としょかんは、ひろくて本がたくさんあります。ずかんの本やどうわの本、わたしにはまだむずかしい本やいろいろな本があります。あたらしい本もあります。小さい本も大きい本もあります。たくさんあるなどおもって見ています。わたしのしっている本もあります。としょかんの本ぜんぶよんでもみたいないとおもいます。

としょかんに入るとき、きょうもたくさんの人だな、みんなもとしょかんの本がおもしろいのだなとおもって入ります。わたしはとしょかんが大好きです。たまにおもしろい本が5さつあると、2さつはこんどかりようとおもっていても、その本がかりられていて、なくなっていることがあります。ざんねんだな、ほかの本をかりようとおもってほかの本をかります。よくさがして見ると、いい本がまだあります。かりた本をたのしみにもってかえります。

そして、ねるときよみます。ようちえんのふたりのいもうとと、おとうさんとよみます。おかあさんはときどきしかよめません。2しゅうかんたつと、いもうととおかあさんと4人でバスにのっていきます。そしてまたかります。いもうともかりるので9さつかりれます。それをもってかえってみんなでよみっこします。いもうとがかりてきた本でもおもしろい本があります。

たのしい本をよむと、たのしいきもちになります。かなしい本をよむと、かなしいきもちになります。本に出てくる人になったようなきもちになることもあります。わたしは本が大の大好きなので、たのしみにとしょかんへいきます。これからもつづけていきたいとおもいます。

## としょかんとわたし



松江市立内中原小学校

2年

奈良井由可

わたしがはじめてけんりつとしょかんへいったのは、ようちえんの年少のときでした。そのときは、おとうさんが子どもの本のあるへやをおしえてくれました。

もっとちいさいとき、おばあちゃんとじょうざんへときどきさんぽにいきました。そのときとしょかんのそばをよくとおったので、ガラスなどのたくさんあるさんかくの大きなおうちだなとおもっていました。

おとうさんといったときは春だったけれど、としょかんはひろくて天じょうもたかいのでひんやりしていました。しんぶんをよんでいる人もたくさんいました。子どものへやは、え本やどうわやすかんとかものがたりの本がきちんとならべてあって、小さい子や大きい人のよむ本もわけてあります。はじめはえ本やどうぶつの本をかりてみました。

それからはテレビでみた山ねずみロッキーチャックやバーバパパの本もかりてみると、テレビよりちがつたおはなしや、えがかいてありました。

夏休みにはよこはまのいとこもあそびにきたので、いっしょにとしょかんへいって本を見ました。

「由可ちゃんのところはとしょかんがちかくていね」とうらやましがっていました。夏休みのにつきには、よんだ本をかくようになっていたので、としょかんでかりた「のうさぎフルー」のおはなしや、「アンデルセンのおはなし」のことなどをかきました。

2年生になって、こくごの本をあけてみると、まえにとしょかんでかりてよんだ本のさくしやの中川りえ子さんのどうわがでていたので、なんだかなつかしいみたいでした。本をいろいろよんではいると、「ああ、あの本のことだな」とおもいだすこともあっていいです。

わたしの本をかりるカードは、もう4まいめになりましたので、かぞえてみると80さつぐらいになるでしょう。その本をみんなかいておけばよかったです、と今ではざんねんにおもいます。これからはどくしょノートをつくってかいておくつもりです。

いまかりている「はじめてのおこづかい」という本は、きょ年よこはまのいとこがもってきた本で、そのときはあんまりよめなかつたけれどいまでは1人でよめるようになりました。

これからもずっととしょかんへつづけていって、いろいろな本を見たいとおもっています。

## 図書館と私



出雲市立第三中学校

1年

山 崎 貴 子

## としょかんを利用して



浜田市立石見小学校

2年

三 上 奈 穂

としょかんでいろいろな本をかりたけど、どうしてドラえもんなどのマンガはないのかな。わたしは、としょかんが大好きです。ただでかりられるし、大好きな本がいろいろえらべるからです。

でも、やっぱりマンガがないと少しさびしいな。わたしのいえがとしょかんだつたらいいのにな。いえからとしょかんがとおいので1人でいけません。

おかあさんも本がすきなので、いつもひるにいつてわたしのぶんもかりて来てくれます。だからやっぱりわたしのいえがとしょかんだつたらいいとおもいます。

わからないことや、しりたいことがあつたら、すぐしらべられるので、とてもべんりだとおもいます。

それから、そんな本はどうしてできるのか、どこでできるのかふしげだな。

わたしは、それがどうしてもしりたいな。

月日のたつのは早いもので、私が出雲市立図書館で本を読むようになってから6年が過ぎた。最初は父に借りてもらっていた本も、今は1人で借りられるようになった。どこにどんな本があるか、ということもわかるようになった。そして、それらを覚えると共に、私はいろいろなことを知った。

一番知識が増えたなあ、と思うのは、文章の書き方である。表現の仕方、句読点のうち方。自分の力だけで書いた文が、県のコンクールで入選した時、私は読書をしてきて本当によかったです、と思った。

“おもしろいから”読んでいた本の中のよい文章一つ一つが、こんなところで大きな力となってくれたのだ。この時、私の文を支えてくれていたのは、それまで読んでいた本の力だったにちがいない。

次に増えた知識は、少し変なことだが、推理小説のことである。小学3年生のころから読む本といえば、ほとんどそのたぐいであった。日曜日に図書館で借り、又、次の週に新しい本を借りて…、というふうにして、自分でも喜びながら読んできた。無理をして難しい本を読んだりもしたが、難しそぎたらしくて中味は忘れてしまった。しかし、おもしろいものは、今でも覚えている。こうして覚えて来たことは、ふだんは役に立たない。でも、作家の名前を聞いた時、「ははあ、あれを書いた人だな」とすぐ出てくるので、知っていてよけいなことではないな、と思っている。

又、くわしく調べたいな、と思った時、図書館は強き味方となってくれる。家にはないような専門的なものもたくさんあるので大変助かる。特に、去年の冬、“正倉院とシルクロード”について研究した時には、よい資料にめぐまれ、思っていた以上にくわしく知ることができた。もとはといえば、本当に軽い気持ちで調べ出した。しかし、やっている内に、「もっとしてみたい。」という気持ちが大きくなつた。その時も、くわしい本を借りることができたの

で、正確なことを知ることができたのだった。調べあげた時に、「図書館を知っていてよかった。」と強く思ったことを今でも忘れられない。

去年の秋、県立図書館へ見学に行った。出雲の市立図書館もすばらしいが、この図書館も、とてもすばらしいと思う。本の数がたくさんあるだけでなく、その保存の仕方に、大変気を使ってあるからだ。湿度まで調節してあるなんて、思ってもみなかった。又行きたいなあ、とよく思う。

私も今年から中学生。心を、しっかりさせなくてはならない。そして、私の、一番大きな欠点である、引っ込み思案なところもなおさなくては、と思う。そして、いつでも明るく、あたたかい心でいたいと思う。“よい書を読め”という言葉をよく聞く。本は人に、人間の真実の心を教えてくれるのだろう。私も人間の真実の心を知りたい。図書館を通して、今まで読んできた本、そしてこれから読んで行く本は、そんな私の思いにこたえてくれるだろう。そして、弱虫な私の心を強くするのに、大きくなつてくれるとと思う。そして、図書館は、これから私にとって、すばらしい友となってくれそうだ。

## 図書館を利用して



仁多郡横田町下横田

主婦

枝木 幸子

コミュニティセンターの建設は、私に思いがけない幸運を運んでくれた。私が住む田舎町に近代的な建物が出来たというばかりでなくその中に「図書室」が誕生したことである。

私は長い間の夢がかなえられたように嬉しかった。真新しい本がずらりと並んでいるのかと、胸をときめかして図書室を訪ねた。

「県立図書館の図書貸出し」という文字が真先に飛び込んできた。私は県立図書館の協力を得て、この図書室が開設されたことを感じとった。小さな図書室には、図書館の本が大半を占めていた。

私は急に見知らぬ土地で友人に出会ったような親しさを感じた。それもそのはず私と図書館とのつき合いは、もう十数年も続いている。山村の不便な所に住みながら、長い間図書館の恩恵を受けてきた私は、そのありがたさがより深く身にしみている。

「地区の公民館へ自動車文庫が巡回してきますので多数の皆さんのお利用を…。」と有線放送を通じ、お知らせが流れたのは十数年も前のこと。その時私は待っていましたとばかりに、5キロ離れた公民館へバイクで走った。

私は初めてみる自動車文庫に心を引かれて家族みんなが読む本を、まるで捧げ持つように借りて帰った。あの日の感激を今でも忘れることができない。これが私と図書館の図書との出会いの始まりであった。それから私は2~3ヶ月に1回巡回する自動車文庫を待ちわびたものである。

図書室が設けられて以来、私は自動車文庫に代って図書室の恩恵を受けることになった。図書室は町民が自由に本を読み、また10日間貸出しも受けられる。

今、工場で働いている私は静かな図書室で読書に更けることは出来ない。借りて来ては夜のひととき



頁をめくる。だから私の読書は容易にはかどらない。でも手もとに本があると思うだけで、私の心はいつも明るい。

図書室のお陰で昨年は読書会が生まれ、私もその仲間となった。図書館の本を1ヶ月に1冊ずつ借りて会員が同じ本を読む。その本を通して得たさまざまな思いを語り合うのが、私たちの読書会である。

自ら求める読書、仲間と語り合う読書、私はこの両方の大切さを知ることができた。

思い返してみれば戦中戦後に学生時代を過ごした私たちは、衣食住の貧しさばかりでなく、本にも飢えていた。1冊の本を拝むように大切にしたものである。

そして農家へ嫁いだ私は、くる日もくる日も山と田んぼを相手にひたすら働き続けた。そんな折、農家の主婦の「生活記録集」を借りて読み、私は励まされた。いやだと思っていた農業に意欲を燃やした。近所の主婦たちに呼びかけて野菜作りをした。その私の生活記録が佳作に入選した嬉しい思い出もある。こうして書くことに目を開かせてくれたのも、私は他ならぬ書物から得た。眠いのも忘れて吸い込まれるように読んだ本。感動して繰り返し読んだ本。涙を流しながら読んだ本。さまざまな本との出会いによって私は多くのことを教えられた。

書物は私にとって師であり友である。

求める心さえあれば誰に気兼ねすることもなく好きな本を借りて読書ができる。

戦中戦後の物心ともに貧しかった時代に比べ、恵まれた今の時代に生きるわが身の幸せを、心からありがたいと思っている。

本との出会い、それを通して広がる仲間作りは、私の人生にとって心の貯蓄であり、大切な財産作りである。私の小さな世界が少しでも豊かになればと願いながら、これからも図書室の恩恵を受けたいと思っている。

## 図書館と私



江津市江津町1280

山パル社宅3-3

主婦

小 熊 由美子

図書館の中に母がいる。図書館の中に母が生きている。だから、私は図書館が好き。

私の母は遠く武蔵野の地に父とひっそりと住む。私は転勤の主人に従い、島根県。幼児の時私は末っ子で、初めての女の子というわけで、父母に非常にかわいがられて育った。母はどこへ行くにも私を連れて行き、私も母と出かけるのが好きだった。

その行先の一つに小金井図書館があった。武蔵野のかしの木立の中に建っていた。外界の喧噪の裏側に足をふみ入れると、幼い私は緊張し、母の背に隠れた。母は婦人雑誌を、私は「ふしぎな国のアリス」を借りた。この「ふしぎな国のアリス」は私の初めて出会った本だった。何回読んだことだろう。アリスに思いをはせ、自分自身をアリスにならせたり、神秘的な世界にひたるのが好きだった。そして、今、私の子供が、その「ふしぎな国のアリス」が大好きと、熟読している。

これが、幼い私と図書館との出会いである。

それから中学、高校では、受験のため、しばらく図書館から遠ざかった。ほんとは一番読んで心の糧にするとよい時期だったのにと悔やまる。

大学へ入ってからは国立国会図書館へ通った。こここの雰囲気は最高だった。いかにも学問をする者の集いという所で、私はそこで授業を発展させ、深く学ぶことが出来た。調べたいことは直ちに私の眼の前に広げられた。

そんな私に母は弁当を持たせた。私はそれを図書館の前の公園で開いたり、中の食堂で食べたりした。

これがはじめて学生と図書館とのつき合い。

それから育児の戦争を経、今38才になった。今の私の図書館は江津市立図書館である。日本海を見渡せ、なるほど、地球は丸いんだなど、きらきら光る水平線を見ながら、明るく近代的な図書館の中に入る。

5人家族の我が家では計15冊借りることが出来る。会社、クラブ活動で図書館へ来れぬ主人と子供等に。

主人には肩のこりをほぐす本。汽車ポッポの本が好きなんて大きな子供だな。中1の長男にはS・F。そうそう、この頃は文学書にも手を広げるようになつたな。小らの女の子はすてきなラブストーリーにあこがれる。小3の女の子には、かわいらしい女の子の出てくるもの…眼を輝かせてふろしき包みを開ける皆の顔が眼に浮かぶ。

大きな木綿の唐草模様のふろしきが、最も15冊を包み易く、持ち易い。冬場、雪の舞う日は、昔、学生時代のスキー合宿で活躍した黄色のリュックサックが肩にくい込む。天気の良い日は自転車が15冊を運ぶ。

夜、小金井の母に便りを書く。

「今週は〇〇の本を借りたんよ。お母さんは何借りたん?」「独歩の武蔵野というのを借りてごらん。お母さんの住んどうる小金井のことが、それはそれはよう書けとるよ。」

母からの返事。

「ほんとにびっくりしました。字が細かくて大変でしたが、昔由美ちゃん(私のこと)とお花見した上水のことや、野菜をわけてもらいに通った境橋のことが出ていましたね。さかいばし

「そうそう、こんなお料理が、借りた本にのっていましたので、コピーして同封しましたよ。」

小金井の図書館と、江津の図書館のふれあう今である。

図書館の中に母がいる。図書館の中に母が生きている。だから、私は図書館が好き。

## 入選

小学校の部	びっくり図書館	大 原 美 加	松江市立朝日小学校	5年
	図書館を利用して	板 持 敦 美	大東町立佐世小学校	4年
	図書かんへ行って	錦 織 さとみ	大田市立大田小学校	3年
	図書館を利用して	中 祖 伸 宏	同 長久小学校	3年
	やぶれていた本	藤 間 裕 之	同 同	6年
	図書館を利用して	森 脳 奈津子	同 同	6年
	私と図書館	野 原 久 美	同 大田小学校	6年
	図書館とわたし	松 村 みつる	仁摩町立仁摩小学校	5年
	図書館と私	川 神 和 子	浜田市立石見小学校	4年
	図書館とぼく	白 須 伸 和	石見町立矢上小学校	3年
	こうみんかんの図書室	竹 崎 理 恵	同 同	3年
	図書館と本	波 多 純 子	同 同	4年
	やぶれた本	三 宅 正 枝	同 同	5年
	公民館の本	坂 根 由香里	同 同	5年
中学校の部	図書館を利用して	高 野 義 朋	湖陵町立湖陵中学校	1年
	図書館と私	三 原 瑞 香	同 同	1年
	図書館を利用して考えること	小 村 泰 子	大社町立大社中学校	2年
成人の部	私と図書館	高 橋 照	松江市山代町704-30	
	図書館と私	吉 原 和 子	松江市比津町567	
	図書館と私	池 上 順 子	松江市菅田町13-4	
	図書館と私	岡 本 信 吉	出雲市大津町西谷2572-22	
	図書館を利用して	勝 部 光 江	大原郡木次町平田522	
	図書館と私	福 島 裕 予	簸川郡大社町杵築東462	